

# 第15回天然薬物研究方法論アカデミー 千葉船橋シンポジウム

主催者 天然薬物研究方法論アカデミー

日 時 平成24年8月18～19日

場 所 クロスウェーブ船橋（〒273-0005 千葉県船橋市本町2-9-3）

## 目的と概略

### ①天然薬物研究方法論アカデミーについて

漢方薬の薬効は、その有効成分に由来するとともに、生体においてその構造を変換された成分にもよるといふ概念が確立した。血清薬理学という新しい学問体系が提唱され、その学術交流の場として血清薬理学研究会が結成された。本天然薬物研究方法論アカデミーは、その血清薬理学研究会が発展したもので、天然薬物の複雑な薬効の解明に迫る斬新な方法論を討議する場として、その存在を確立してきた。また、少人数の参加者ながら、一晩みんなで泊まって討議するという他の学会にはないユニークなプログラムが特徴である。

### ②今回の千葉船橋シンポジウム概要

今回15回千葉船橋シンポジウムでは、会長 鈴木重紀（帝京平成大学薬学部）、事務局長 小池一男（東邦大学薬学部）、組織委員 秋葉哲生（秋葉クリニック）、並木隆雄（千葉大学医学研究院）、池上文雄（千葉大学園芸学部）、木元博史（永津さいとう医院）、および堀江俊治（城西国際大学薬学部）という千葉県の漢方薬研究関係者が集い、学会の企画、運営にあたった。

集会は本年8月18～19日に千葉県船橋市の船橋クロスウェーブで開催された。天然薬物研究方法論アカデミーの名の通り、現状における天然薬物研究（今回は漢方薬研究）のいろいろな困難を、斬新な方法論を用いたらブレイクできるかどうかについて議論が行われた。会員のみならず、千葉県、東京都などの天然薬物の研究者、製薬企業研究者、医師、薬剤師、医薬系学生に広く呼びかけ、新しい和漢医薬学研究者の参加を呼びかけた。

## プログラム

8月18日（土）

会長講演 13:00～13:30

鈴木 重紀 帝京平成大学薬学部・前教授  
回顧25年

基調講演 13:30～14:30

井齋 偉矢 静仁会静内病院・院長  
サイエンス漢方処方学概論

シンポジウム I 15:00～16:40

渡辺 均 千葉大学環境健康フィールド科学センター・准教授  
薬用植物の施設園芸的生産とその将来性

角野めぐみ 千葉大学環境健康フィールド科学センター・助教  
煎じ薬の抽出効率に関する研究

特別講演 I 17:00～18:00

鶴岡 浩樹 つるかめ診療所・所長／自治医科大学地域医療学センター 非常勤講師

臨床における様々な研究デザイン：漢方のエビデンスを求めて

イブニングセミナー 20：00～21：30

木元 博史 永津会・永津さいとう医院・院長

自動皮膚抵抗測定装置 AMSAT を使用した処方決定の試み

小倉 左羅 高輪エアークリニック・歯科医

気診による漢方薬の選び方

8月19日（日）

シンポジウムⅡ 9：00～10：40

山崎 真巳 千葉大学大学院薬学研究院・准教授

漢方方剤の構成生薬・成分へのオミクス科学の応用

東田 道久 富山大学和漢医薬学総合研究所 複合薬物薬理学分野・准教授

和漢薬理論でうつ病の基礎研究に切り込む：

うつ病の細分化，分子機序の解明，新規治療薬の開発をめざして

特別講演Ⅱ 11：00～12：00

門脇 真 富山大学和漢医薬学総合研究所消化管生理学分野 教授

腸管免疫性疾患に対する和漢薬からのアプローチ

#### 参加者数

学外：100名

#### 和漢医薬学の科学的基盤形成および関連研究者コミュニティ形成への貢献

一演題の割り当て時間も1時間弱となっており，様々なバックグラウンドを持つ参加者全員が一会場でじっくり聞き，じっくり討議するという，最近では珍しいじっくり型の討論を実施できた。それだけに提供される話題が重要になってくるが，テーマを絞らず，漢方薬研究に斬新な方法論で取り組んでいる研究者に発表していただいた。各演者は研究成果というよりは，漢方薬をどのように考えどう取り組んでいるかというフィロソフィーを語っていただいた。

こういった発表を聞き討議することは，演者のみならず参加者にとって，和漢医薬学の科学的基盤形成に貢献する研究を推進する一助となりうる事が期待される。さらに，このような交流により，今後，この研究分野の研究者人口が拡大し，関連研究者コミュニティが形成されることが期待される。